



題字 井口 文章
再刊 第487号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2025

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面…教育実習生へインタビュー！
「おわび」掲載が遅くなり申し訳ありません。
中央委員会に加わった1年生の意気込み！
二面…SNSの使い方について振り返る

熱意溢れる11人の教師の卵

母校で挑戦し続ける教育実習生へ取材

新たな仲間が加わった中央委員会

今年度の中央委員会には、4人の1年生が一般中央委員として加わった。一般委員とは、生徒会が任命する有志の中央委員のことだ。一般中央委員になった小林怜翔さん(1B)、鈴木美雨さん(1A)、向田りんさん(1I)に活動の様子をうかがった。



やる気に満ちた4人

学生生活とは違うことを吸収できると思ったそうだ。同じく中学時代、生徒会に入っていた向田さんは、生徒会長が

新入生歓迎会で行ったスピーチを見て、生徒会長のようになんかできる人になりたいと思った。小林さんは課題をこつこつと進めることが得意で、そんな自身の性格が一般中央委員の仕事に向いていると思ったという。

今後の活動について、八田さんは一人ひとりの個性が大切だという考えの下、個性を

もあつた。しかし高校3年生のころに文法の仕組みを理解しバズルのような面白さに気が付き、その奥深さを伝えたいという思いをもったという。また、中学時代に所属していた吹奏楽部で他の楽器の子に教えていた時に、人に何かを教えることの楽しさを知り、教師を志したと話す。



「ポジティブに考えよう！」



「楽しい授業を一緒に作りたい」

森田先生が教師になると思ったきっかけは、小学6年生のとき英語が苦手な小学4年生の弟に英語を教えていくことで、教えることの楽しさに気づいたからだという。もともと英語が好きで、英語に関わる仕事をしたいと思っていたそうだ。

高校時代は室内楽部に所属していたという古池先生。家族がみんな教員免許を持っているため、自然と教員免許を取ろうと思ったと語った。お世話になった先生は1年生の時の担任だった朝倉先生

「森田先生(英語科) 森田先生が教師になると思ったきっかけは、小学6年生のとき英語が苦手な小学4年生の弟に英語を教えていくことで、教えることの楽しさに気づいたからだという。もともと英語が好きで、英語に関わる仕事をしたいと思っていたそうだ。」

高校時代は室内楽部に所属していたという古池先生。家族がみんな教員免許を持っているため、自然と教員免許を取ろうと思ったと語った。お世話になった先生は1年生の時の担任だった朝倉先生

「竹内 優輝先生(数学科) 先生を志した理由は、中学の数学の先生の教え方を広めたいと思ったからだ」と語る竹内先生。それは、具体的な事例を出して聞かしてから、一

高校時代の思い出は1年生の合唱祭で他のクラスが制服を着て歌っている中、クラスTシャツを着て当時流行っていた「パブリカ」を踊ったことだと楽しそうに話してくれた。好きな四字熟語は「喜怒哀楽」で、この言葉を聞くと、人間らしさを感じ、自分の感情も他の人の感情も大切に生きていこうと思えるからと語る。球技大会の錦城生は一

「担任するクラスには英語が好きな生徒が多いようなので、先生方が作ったその土台を利用して、みんなに合うような授業がしたいです」と実習へ意気込む古池先生。今は職員室に慣れようとしている、と語り「授業外でも先生方を真似して教師としての人間性を養いたいです」と笑顔で話してくれた。

高校時代の思い出は1年生の合唱祭で他のクラスが制服を着て歌っている中、クラスTシャツを着て当時流行っていた「パブリカ」を踊ったことだと楽しそうに話してくれた。好きな四字熟語は「喜怒哀楽」で、この言葉を聞くと、人間らしさを感じ、自分の感情も他の人の感情も大切に生きていこうと思えるからと語る。球技大会の錦城生は一

「担任するクラスには英語が好きな生徒が多いようなので、先生方が作ったその土台を利用して、みんなに合うような授業がしたいです」と実習へ意気込む古池先生。今は職員室に慣れようとしている、と語り「授業外でも先生方を真似して教師としての人間性を養いたいです」と笑顔で話してくれた。



「学校での学びを身近なものに」

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。



「数学の楽しさを知ってほしい」

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

沼田佳歩先生は、1年生の生物基礎を担当している。先生は錦城生への授業を通して「錦城生は授業を真面目に受けてくれるし、文武両道にできていて凄いと感心しました」と話した。

体操部3年生大会で男女それぞれ入賞

男子

清水栄佑さん(3D)は5月4日(日)に国士館大学多摩キャンパスで行われた東京都体操競技3年生大会で、床2位・吊り輪3位・平行棒3位、総合1位という輝かしい成績を収めた。清水さんは「自分が1年生の頃より周りのレベルが上がっていて緊張しました。自分が入賞することもできないんじゃないだろうかと不安に思う気持ちもありましたが、最終的に1位になって驚きました」と語る。練習時は膝、つま先をきれいに伸ばすことを心掛けていたという。体操という競技は技の難易度だけでなく技の洗練度やきれいさも採点基準の1つ。減点されないためにも練習時はその部分を特に意識したそう。

きれいな演技を

清水さんは体操部の部員へさらに「動きが大きくて派手な技、カッコいい技でもいいけど、それだけに囚われるのではなくきれいな演技を心掛けてみてほしいです」と伝える。「自分の演技にはまだ足りないところがあるので、練習を重ねもっと洗練されたきれいな演技ができるようにしたいです」と笑顔を見せた。(蓮)

女子

体操部が4月27日(日)に東京女子体育大学で行われた女子学年別3年生大会で団体の3位に輝いた。大会に出場した堀小春さん(3A)、小林爽さん(3B)、橋本灯里さん(3I)、丸地夏穂さん(3K)は、周りがレベルアップしていく中、自分たちも1年生だった頃よりレベルアップし、練習の成果を試合で出すことができた、と笑顔で語った。練習では、自分たちの得意種目に特に力を入れ、大会で成功できるように努力したそう。丸地さんは、練習中は平均台の「前宙降り」という技をいつも失敗していたが、本番で成功させることができた、ととても嬉しそうに話し、部員へ「練習すればできるようになる」とメッセージを送る。堀さんたちも最後は「きっと成功できるので挑戦した者勝ちだよ」と口々に伝えてくれた。4人は、「3年生の最後の試合に向け、今まで出来ていなかった技を完璧にしたいです」と部活動の幕を閉じる試合に向けて意気込みを見せた。(水)



挑戦したもの勝ち！

むらさき草

新聞委員会に入ってきたそく任された記事の、学業と文化部活動を両立したという文脈で使った「文武両道」という言葉。ある先生は「武は武芸運動部などを意味し、文化部という意味で使用するのは不適切なのは、とアドバイスをくれた」辞書を見てみると「文」は学芸、武は武芸が本来の意味で、確かにその指摘の通りだった。ただその先生も、周りの若手の先生方が「文」は学業、武は部活動という使い方に違和感を覚えてきたことから、言葉の解釈の違いに驚いたと教えてくれた。▼文部科学省の令和5年度「国語に関する世論調査」では、「失笑する」の正しい意味を回答する問題で、本来の意味である「こらえ切れず吹き出して笑う」を選んだ人が56%にとどまった。一番多かった誤答は、「笑いも出ないくらいあきれ」で20%。さらに平成23年度と比較すると、約7%も増加していた。本来の意味として伝わらない可能性がある言葉は、他にもあるようだ▼国語の授業で扱った『グローバル化と「文脈」』(著・與那覇潤)に、このような一節があった。「求められるのは、何語であれ、自分の側の文脈(前提とする知識や価値観)を自明視せずに、自分とはまったく違う前提や背景を持つ人々たちにも理解できる姿で、自分の考えていることを表現する能力です」。つまり、自分と異なる世界を持つ人々たちとも、意見を交わせるスキルが大切なのだと思う▼自分たちの世界では通じる言葉も、少し立場が違っただけで全く理解されないことがある。新聞委員会の活動を通じて、多くの人と言葉交換する機会が増えるだろう。言葉を使う際には、自分たちだけの言葉になっていないのか、相手もしっかりと理解できるのか、自らの言葉を振り返っていききたい。(桃)

錦城生 SNS 事情～あなたはどうか考える？

「規制には反対」6割 オーストラリアSNS制限法について聞きました

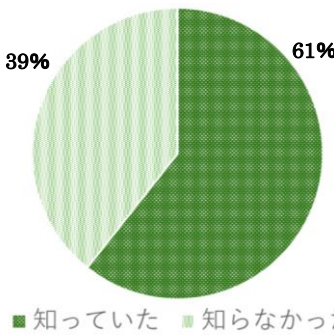
2024年12月、オーストラリアで16歳未満のSNS利用を禁止する法律が成立した。錦城生はどう考えるか、春休みに生徒アンケートを実施した。掲載が遅くなりました。アンケートのご協力ありがとうございました。

どんな法律なのか

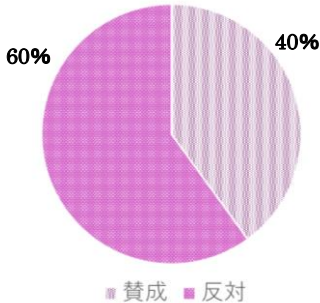
成立した法律はSNSの運営会社に16歳未満の子どもが利用できないような措置を行う義務を取り付けるもので、違反した際の罰金は100万オーストラリアドル。日本円およそ48億円が課されるそうだ。保護者や子ども自身への罰則はない。TikTokやX、インスタグラム、ナッパ

オーストラリアのSNS 法案について、反対の声が多い結果となった(回答数 150人)

オーストラリアでこのような法案が可決されたことを知っていますか？



あなたは、16歳未満の SNS 使用を禁止する法案について賛成ですか、反対ですか？



オーストラリアの SNS 法案を知っていたと回答した人が多い結果となった(回答者 150人)

錦城生はどう考えるか

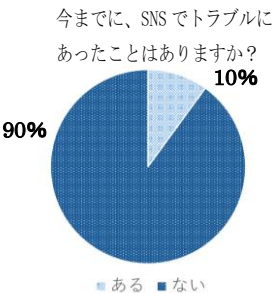
アンケートでこの法律が成立したことを知っているか聞いたところ、「知らなかった」と答えた生徒は全体の40%で、意外と多かった。では、錦城生は利用制限の法律についてどう考えているだろうか。アンケートでは、制限に「賛成」と答えた生徒が40%に対し、「反対」と答えた生徒が60%と、反対意見が多く挙がる結果となった。反対意見の理由で多かったのは「LINEが使えないのは不便」という声。また「世間を知らなくなるし、視野が狭くなるか

する、安易な対処方法だ」という意見があった。都市部から離れた場所に住む子どもたちや、障害を持つ子どもたち、周りには打ち明けない悩みを抱えている子どもたちは、SNSで助けや居場所を求めるということもあるそうだ。「SNSにはリスクもありますが、助けを求められる場所でもあるのです」という声もあるそうだ(以下、Webニュース令和7年1月14日)。

同アンケートで行った「今までにSNSトラブルに遭ったことはありますか？」という質問に対しては、「はい」と答えた生徒が10%であった。結果、一定数の錦城生がトラブルに巻き込まれたことがわかった。具体的には、「SNSを通して話していた友達とチャット上で口論になった。言葉の意味のすれ違いによって起こったものだった」「悪口や嫌味をインスタに書かれた」といった知り合い同士のトラブルや、

SNSトラブル経験あり1割

過去に SNS トラブルに遭った生徒が一定数いるという結果となった(回答者 150人)



反対派 VS 賛成派 あなたはどっち？

反対	自分は料理をする時や、買い物をする時にSNSの投稿からヒントを得て作ったり買ったりしているので、自分の可能性や、知識の範囲が減ってしまうと思うから。
反対	16歳前から、SNSを利用することで、幼いころからメディアリテラシーや、SNSを利用する能力が身につくからです。その分危険性はありますが、保護者の目がついていれば、大丈夫だと思います。
反対	自分の選択に責任を持つことが必要だと思うから。
反対	いじめや犯罪に相次いで巻き込まれることは非常に悲しいことだが、snsの使い方を実際に身をもって学び始めるのが遅いとそれこそより大きなトラブルに巻き込まれると思うから。
反対	ルールを使って守れば規制するほどのことはしなくていいと思う。子供であっても使用する権利はあるはず。自由を奪うのはやりすぎだと思う。
反対	使い方を間違えなければ便利だから。
反対	家庭内及び学校に居場所が無いと感じていて、SNSが心の支えとなっている子どもの数も同様に多いはず。SNSの使用は選択する余地があるが、この法案は、SNSを必要としている子どもから強制的に奪うことになるから。
反対	いじめや犯罪の手段としてSNSが用いられているため、規制を行うよりもいじめや犯罪の危険性を伝える教育が大切だと思う。
反対	SNSすべてを禁止にするのはやりすぎかと思ったから。
反対	自分の実生活だけでは得られない視野が広がるから。また、個人が活躍できる場が増えるため。
反対	情報へのアクセスに制限がかかるのは子供の可能性を制限してしまうと思うから。
賛成	16歳未満だとネットリテラシーがまだ浸透しておらず、先に知識を身につけてから実践したほうが良いと思ったから。また、SNSの治安が主にキッズのせいで悪化することもあるから。
賛成	公園で遊んでいる子供を見かけたとき、彼らの片手にはスマホがあり、遊具で遊ばずにずっと画面を見ている子がいて、せっかく外に出ているのに、友達と一緒にいるのになあと、おばあさんのようなことを思ってしまうから。また、自分が使うときに、若いときからSNSをしていても、貴重な時間が無意味なものに使われたり、学力低下や視力低下につながるかと自覚しているから。
賛成	SNSというコンテンツの刺激が強すぎるから。
賛成	犯罪に巻き込まれると危ないから。
賛成	最近の子どもたちは、スマホなどの電子機器を持ち始める時期が年々早くなっているように感じる。SNSなどを扱うことによる利点はもちろん考えられるが、それ以上に子どもの成長を阻害してしまうのではという欠点のほうが大きく映ってしまう
賛成	高校生になってから十分できるから、小・中学生時代は友達とかとリアルで話して遊んでほしいから。
賛成	依存性が高く、また自由度も高いため、より高度なリテラシーを要するから。
賛成	私自身があまりSNSを使っていないので、なくても生活に支障をきたすことはないと感じたから。また、SNSは勉強時間を妨げるものだと思うから。
賛成	最近の若者がSNSをするのはSNSを若者でも多くの人が使うという風潮があるからである。以前のように電話や手紙、実際に会う上での会話で完結させれば良い。利便性よりもトラブルに巻き込まれる危険性を重視すべきではないだろうか。
賛成	自分自身怖い思いをしたことがあって、大人に相談することもできず、ちゃんとした知識もない状態だったから。

アンケートを通して SNSなどが普及し、自分の手に入れた情報や簡単に手に入れることができる一方で、間違った情報を鵜呑みにしてしまう可能性も高まる。正しい情報を手に入れるには「情報リテラシー」の能力が必要不可欠だ。その情報リテラシーが、果たして16歳未満の子どもたちにあるのかと考えると、やはりこの法案を施行すべきであるといった考えを支持する人もいる。しかし、SNSは今の社会に大切な道具であり趣味や好きなことの世界を広げることができるという点や、幼いころから使っておくことで「情報リテラシー」を身につけることができることを考えて、SNS規制に反対する人もいます。錦城生へのアンケートでは、意外にも賛否両論であることが分かった。私たちも当事者として、改めてSNSとの付き合い方を考えるべきだろう。(燕)

(二面続き)

相原 莉子先生(情報科)

「情報の魅力は0から無限大のものをつくれること」と語るのは情報科の相原先生。



「失敗が大切です」

「『うまく使えば勉強や友人関係にも良い影響を与えるから』などの意見も複数人から挙げられた。他に「SNSを使い始めるのが遅いと、それこそより大きなトラブルに巻き込まれると思う」「むやみに抑圧したら、解放されたときに依存しやすくなる気がする」という声もあった。一方、法律によるSNS制限に「賛成」と答えた生徒からは、「SNSでトラブルに巻き込まれるのが怖いから」「問題が起きてからでは遅いから」といった意見が多く挙がった。他に「依存性が高く、また自由度も高い(参考、引用:Webニュース令和7年1月14日)」。SNSに要するから」「SNSによる偏った見解によって、まだ自分らしさや心の形が定まりきっていない年代の子供たちを歪めてしまうかもしれないから」「自分自身も実際にSNSで怖い思いをしたことがあったから」という声もあった。

染谷 和輝先生(体育科)

先生への憧れがあったという染谷先生。男子バレーボール部の後輩への教え方を工夫したとき相手が上達するのはうれしかったという。錦城生の印象はしっかりとしていることで、それが良い面を送ってくれた。



「思いっきり行事を楽しもう！」

「It always seems impossible until it's done. (やるなことも完了するまではいつでも不可能に思える) これを自身の座右の銘にしているという田口先生。大学時代に知識が豊富で教える方が上手な先生がいたという。自分もその先生のように聞いていて人に面白いと思っ

田口 耀先生(国語科)

「みなさんの記憶に残るような面白い授業をやります」と意気込みを語ってくれた。



「学んだことは必ず役に立ちます」

こと、と話してくれた。社会科で公民を担当している田村先生は、2年生の授業を受け持っている。錦城生の印象について、勉強に対して前向きで学業をポジティブに捉えていると話した。

田村 怜士先生(社会科)

高校時代は、新聞委員会編集部所属していたという。また社会科は当時から好きで、好きが転じて教えたいた気が持ちが強まり大学へ進学。大学在学中に、自分が学んだことで何ができるのかを考えた末、教師を志したそう。好きな四字熟語は率先垂範。人の先に立つて行動し模範となるという意味で、人の手本となる人になりたいという思いがあるという。先生は「知的に面白いと思ってもらえる、そして学ぶことに意義を感じてもらえるような授業を作りたい」と笑顔で意気込みを語ってくれた。



「学ぶことの意義を感じてほしい」

第485号に誤りがありましたので、訂正しお詫び申し上げます。
【第485号表 春季球技大会ドッジボール決勝戦】
誤) 2F 対 2C → 正) 2F 対 2G